



# 同和問題 シリーズ

▷ 321

## 根強く存在する 部落差別

「もう部落差別はなくなった」「私は差別をしていません」と言う言葉を耳にすることがあります。

でも、本当に差別をする人はいなくなり、差別はなくなったのでしょうか。

いいえ、差別は形や方法を変えて現存しており、地域や学校、企業などでは、差別落書きや差別発言、差別投書な

# 差別のないまちを目指して

## 部落解放月間 7月10日(土)～8月9日(月)

「みんなの願い 差別のない社会 人権尊重の社会」

どの事件が相次いで起こっています。また、最近では、パソコンの普及に伴って、インターネットのホームページや掲示板を利用した部落差別事件も増加しています。中には、被差別部落の人に対して生命を脅かす卑劣で悪質な内容のものもあります。

このように、私たちが生活する社会には、あらゆる差別が見え隠れし、「差別をしていません」という人の中には、自分の発言や行動の中に潜む差別意識に気付いていない人も少なくありません。

### 県民意識調査から

平成十二年七月に鳥取県が行った県民意識調査(右下図参照)に次のような集計結果が出ています。

「今の時代、部落差別はも

はや存在するはずがない」という質問に対して、「そう思う(部落差別は存在していない)」と回答した人は約二十五パーセント、「そうは思わない」約四十二パーセント、「どちらとも言えない」約三十一パーセントとなっています。その内「そうは思わない」「どちらとも言えない」と回答した人を対象に、「世間の人々は、口先でいいことを言っても、腹のそこでは差別している」という質問をしたところ、「そう思う」と回答した人が約五十一%もいました。この回答結果からも、部落差別が今なお、根強く残っていることが伺えます。

### 部落解放月間を機に

鳥取県が部落差別の解決に向け啓発活動を行うために、

部落解放月間を定めてから三十余年が経ちます。

鳥取市同和教育協議会でもこの月間中に、部落解放鳥取市研究集会を開催して、今年で三十一回を迎えます。研究会では、同和問題への理解を深め、差別をなくするための取組みの討議を行っており、毎年多くの市民が参加しています。差別のない明るいまちをつくるためにも、私たち自らが差別を許さない取組みのための新たな一歩が、今、必要なのです。

## 第31回部落解放鳥取市研究集会

「部落問題の解決を自らの課題とし、  
全市民で人権尊重の輪を広げよう」  
～部落解放鳥取市研究集会 30年の歴史に学び、  
新たな一歩を踏み出そう～

- とき 8月5日(木)  
[全体会] 午前9時30分～12時  
[分科会] 午後1時～4時30分

- ところ  
[全体会] 県民文化会館 梨花ホール  
▷中学生人権作文コンテスト鳥取県大会入賞作品朗読発表  
▷部落解放同盟東部地区協議会青年部解放劇「夜明け」  
[分科会] 県民文化会館小ホール他

■問い合わせ先 人権推進課 (☎ 20-3144)

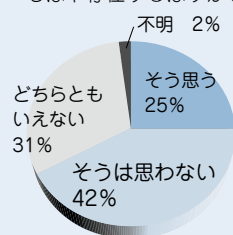


### 部落史シンポジウム

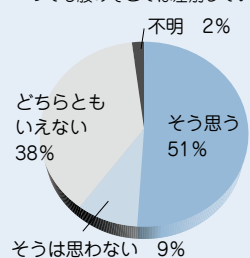
「歴史に学ぶ 差別のかたち」  
とき 8月7日(土)午後1時30分～4時30分  
ところ 県民ふれあい会館  
講師 上杉聰さん(関西大学講師)  
パネリスト 鳥取県部落史研究会員  
■問い合わせ先 鳥取県同和对策課 (☎ 26-7073)

### 県民意識調査

Q1.今の時代に部落差別は、もはや存在するはずがない



Q2.世間の人々は、口先でいいことを言っても腹のそこでは差別している



平成12年7月 同和問題についての県民意識調査報告書より - 鳥取県同和对策課 -